

## 2 エナメル上皮線維歯牙腫の1例

佐々木善彦・大関 尚子

Raweevan ARAYASANTIPARB

織田 隆昭・諏江美樹子・亀田 綾子

外山三智雄・羽山 和秀・土持 眞

日本歯科大学新潟生命歯学部  
歯科放射線学講座

エナメル上皮線維歯牙腫は線維性組織のなかに歯原性上皮の増殖と歯の成分である象牙質やエナメル質の形成が見られる稀な歯由来の顎骨腫瘍である。

今回われわれは下顎左側臼歯部に発生した比較的大きなエナメル上皮線維歯牙腫を経験したので報告する。症例は14歳、女子。顔貌の変形と下顎左側第二大臼歯の萌出遅延のため紹介来院。パノラマX線とCT検査にて、下顎左側第二小臼歯から後方の下顎角、下顎頭、筋突起におよぶ下顎枝全体の顎骨内に歯牙様のX線不透過像を含むX線透過性・不透過性混在の境界明瞭な病変領域を認めた。X線所見より歯原性良性腫瘍を考えエナメル上皮線維歯牙腫が疑われた。

本症例では病変領域が広範囲で、治療法として下顎骨の半側切除が施行された。早期にX線検査が施行されていれば腫瘍が腫大する前に治療が可能で手術侵襲は少なく済んだと思われる。

## 3 新規超音波造影剤ソナゾイドの肝細胞癌診療における有用性

津端 俊介・川合 弘一・窪田 智之

栗田 聡・田村 康・高村 昌昭

五十嵐正人・山際 訓・松田 康信

大越 章吾・野本 実・青柳 豊

渡辺 雅史\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
消化器内科学分野  
新潟大学医学部保健学科\*

【緒言】肝細胞癌(HCC)におけるソナゾイドの有用性につき検討した。

【対象】2007年1月から6月までに経験した、①angio CT下に古典的HCC像を呈した病変

(23病変)と、②古典的HCC像を呈さないものの組織学的にHCCと診断しえた病変(2病変)につき検討を行った。

【結果と考察】①古典的HCC；評価可能であった病変は、いずれも血管イメージングでhyper、クーパーイメージングでhypoとなった。古典的HCCに対しソナゾイドは有用と考えた。しかし散見した評価不能病変への対応が課題と考えた。②非古典的HCC；Angio CT上動脈血流が低下していた病変について、その変化を血管イメージングで捉えることができない病変を経験した。一方で、血行動態による診断が困難な症例で、クーパーイメージングが有用であった病変も経験した。各イメージングで典型的所見を呈さない境界型病変の解釈が今後の課題と考えた。

## 4 血管拡張剤の動注療法が奏効した非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)の1例

高野 徹・丸山 克也・谷 由子

伊藤 猛・西原真美子・山田 聡志\*

須藤 晃祐\*・高橋 達\*

長岡赤十字病院放射線科

同 消化器内科\*

症例は68歳、女性。腹痛を主訴に来院。腹膜刺激症状なし。CTを施行し、腸管壁の肥厚、腸管膜浮腫、腹水があり腸管虚血の所見があるものの上腸間膜動脈に閉塞はなくNOMIが疑われた。血管造影を施行し本幹と分枝の狭窄がみられNOMIと診断し、塩酸パパペリン60mg動注施行。狭窄は軽減するも残存するためPGE1持続動注を4日間施行。動脈狭窄と腸管肥厚は消失、症状も軽快した。NOMIは一般に非常に予後不良だが、早期の段階で診断できれば動注療法は有効で救命しうるものと考えられた。